

P1 江戸川まいにんぐ 「篠崎駅前まちづくり」

P2～4 特集 「この人物に惚れた！」

P4 スタッフのセレクション 「ワセダ三畳青春記」

図書館報 ぷらっつ★篠崎

026号

2012・第66回読書週間標語



ホントノキズナ



10月27日から11月9日は、秋の恒例行事「読書週間」です。今年も篠崎図書館では、読書の魅力を伝える企画や展示で、思いがけない本との出会いをお届けします！
展示期間:11月1日(木)～11月30日(金)

書架展示「引っ込み思案な本たち ～篠崎図書館で出会う100の本」

ベストセラーのように目立たないけれど、キラリと光る個性を持った本たち。本当はこんなに良い本なのに……そんな、いつもは沢山の本の中の一冊として書棚に収まっている本たちにスポットを当て、篠崎図書館スタッフ選りすぐりの100冊を、各ジャンルの書棚にて展示します。
“引っ込み思案な本” たちがあなたとの出会いを待っています。



江戸川まいにんぐ 発掘 第26回 「自らのまちは、自らの手で」をテーマに 篠崎駅前まちづくり

江戸川区内のイベントやスポットをスタッフが調査して身近な情報をお届けする、地域密着型のコーナーです。

篠崎駅が完成した昭和61年当時、平地にぽつんと建つ駅舎は、まるで公衆トイレのようでした。そんな駅前が変わっていったのは平成16年から区が行った篠崎駅西部土地区画整理事業によるものです。

区は地域の住民と協働で「まちづくり委員会」を設立、近所同士が気軽に話し合いができる「路地裏ワークショップ」を3カ月間で22回も開催しました。その結果、まちづくりの気運がたかまり「まちづくり協議会」が設立されました。

事業は街区の特徴を活かし次のようなものになりました。

- ① 駅前街区(篠崎町7丁目20・21):民間企業による公益複合施設建設を整備。これが篠崎文化プラザです。
- ② 2班街区(篠崎町7丁目4・5・8・9):行止まり私道を解消し、防災性や利便性の向上を図りました。

- ③ 上四街区(上篠崎4丁目22):敷地面積の狭い住宅を共同住宅化しました

公衆トイレのような駅舎しかなかったのが、区と周辺住民の皆さんの努力で魅力的なにぎわいある駅前に生まれ変わったのです。3年前から文化プラザに通勤している筆者もその恩恵を受けているのですね。

この事業は「篠崎駅西部地区連鎖型土地区画整備事業」として、平成21年度「土地活用モデル大賞」で国土交通大臣賞を獲得しました。

この事業についてもっと詳しく知りたい方は、下記の参考文献をご参照ください。



完成時の駅舎の外観

参考資料

「篠崎」
「江戸川区区画整理事業四十年の歩み」
「江戸川区の区画整理によるまちづくり」

東京都第一区画整理事務所／編
江戸川区土木部区画整理課／編
江戸川区土木部区画整理課／編

K1-51 篠崎ほか所蔵
K1-51 篠崎ほか所蔵
K1-51 篠崎ほか所蔵

イベント情報

お問合せ:篠崎図書館 (03-3670-9102)まで

ライブラシネマ篠崎 10月7日(日) 14:00～16:00

「断崖」(1941年、アメリカ) 監督:アルフレッド・ヒッチコック

講演会 11月17日(土) 14:00～15:30

「イタリアの教会めぐり」 講師:金沢百枝 ※申込制

立花宗茂

(戦国大名)

文武両道で義に厚く、戦略もピカイチ！家臣はもちろん、領民にも慕われていた名将なのです。生き様がアツイ。宗茂公は私にとってアイドルで、携帯の待ち受けにして、いつもご尊顔を拝んでいます。少しでも、宗茂公に近づけるよう日々精進中です。



「無双の花」

葉室麟著
文藝春秋
Fハ
篠崎ほか所蔵

秀吉に「その忠義鎮西一、剛勇また鎮西一」と称された戦国大名・立花宗茂。関ヶ原の戦いで領地を没収され、一時は浪人の身になりながらも大名に返り咲く夢を諦めず、妻や家臣たちの支えによって、旧領に戻る事が出来た宗茂の生涯を描く。

小泉八雲

(作家)

……に惚れたかは微妙なところですが、彼の妻・節さんに書いた手紙がとても好きです。「ヨク来タト申シタイアナタノ可愛イ手紙、今朝参リマシタ。」で始まる手紙のなんとかわいいこと！手放しの深い愛情が言葉と結びついて、チャームリングです。



「小泉八雲の家庭生活」 (「萩原朔太郎」所収)

萩原朔太郎著
筑摩書房
B918ハ
篠崎ほか所蔵

朔太郎が「永遠の漂泊者」と評した小泉八雲が、終の棲家として選んだ日本で築いた家族との生活が綴られています。悲哀と厭世観に満ちた人生であるからこそ、彼はあたたかく灯る安住の場所として家族をとて慈しんでいます。風変わりな日本語「ヘルンさん言葉」で交わされる節さんとの会話が、お互いを思いやる気持ちに溢れていて印象的です。

花咲慎一郎

(保育園園長にして私立探偵)

自分よりも誰かのために命を張れる(優しくなければ生きていく資格がない)を地でいく男。眠らない街新宿に、こんなにも優しい保育園園長(兼探偵)がひとり。本当のカッコ良さは、きつこういう事なのだ。



「フォー・ディア・ライフ」

柴田よしき著
講談社文庫
BFシ
篠崎ほか所蔵

新宿2丁目で無認可だが最高に温かい保育園を営む男・花咲慎一郎(通称ハナちゃん)。慢性的な資金不足にもめげず、園の存続、子供たちの笑顔のためにヤバい仕事も引き受ける私立探偵も兼ねている。柴田よしきのハートウォーミング探偵小説シリーズ。

J (二発屋ロッカー)

酔っぱらいだし、女性にだらしないし、プレッシャーに弱いし、こういう人には惚れたくない……と思いつつ、Jを語っているようで結局自分語りな(女たち)の話から彼の孤独が浮かび上がり、思わずキュンとしちゃいます。



「彼の女たち」

嶽本野ばら他著
講談社文庫
BFカ
篠崎所蔵

Jがデビューして人気を極めるも落ちぶれて18年後に復活ライブを行うまで、という時間軸でストーリーは流れる。それをJの周辺5人の女性それぞれの一人称で描いているのが特徴。しかも豪華人気作家のラリーで！2008年刊「JOY！」(区内所蔵有り)の改題文庫化です。

スタッフのセクション! 第26回

「ワセダ三畳青春記」

高野秀行著 集英社文庫 BFタ 篠崎ほか所蔵

この本には青春が詰まっている！と言いたい、爽快な一冊をご紹介します。

日本でただ一人の辺境作家という肩書きを持つ著者。「誰も行かないところへ行き、誰もやらないことをして、それを面白おかしく書く」をモットーに、さまざまな冒険を繰り広げてきました。本書は著者が青年時代の11年間で過ごしたアパートでの出来事を綴った、自伝的小説です。家賃一万二千元、三畳一間、風呂なし共同トイレのアパート「野々村荘」。そこには大家のおばちゃんをはじめ、強烈な個性の面々が待ち構えていたのであります……。しかし、流しの三味線弾きになるべく昼夜を問わず三味線を弾きまくったり、幻覚作用のある植物を食べて意識不明に陥ったのち、瞳孔が開きっぱなしになると

篠崎図書館で働くスタッフが選んだおすすめ本を紹介します。

いう体験をした著者もなかなかのツワモノであったと思います。野々村荘の変わり者たちのなかにすっかり馴染み、穏やかに(稀にトラブルあり)日々を過ごす著者。が、時の移ろいとともに変わり始める仲間達の姿を目にし、野々村荘に留まり続ける自分に違和感を覚えます。「このままここにいてはいけない」。そんな思いを抱きながらも野々村荘を出て行く決意を固めるには、ある人との出会いが必要でした。

今から思えば恥ずかしい思い出の数々、大家のおばちゃんの優しさ、巣立ってゆく友人たちへの焦り、そして恋。奇想天外なエピソードばかりですが、これもまた著者にしか書けない、オンリーワンの青春物語です。ぜひご一読ください。

編集後記

霊峰・白山に登って、登山に目覚めました。まずは、関東の山から攻めようと思います。(風雲ふわふわ丸)／食欲の秋＋スポーツの秋＝プラスかマイナスか……次回ご報告！(ジーク・信玄)／食欲の秋。その誘惑に負けず体を動かし、体脂肪増量を阻止しています。(愛燦燦)／眼科で視力の低下を指摘されました(泣)。対策として枕元に読書灯を設置。読書の秋ですが皆様もご注意を。(まろにえ船長)

編集・発行：江戸川区立篠崎図書館

住所：〒133-0061

江戸川区篠崎町7-20-19

篠崎文化プラザ内

TEL:03-3670-9102

[しのぎ文化プラザHP]内篠崎図書館ページ

<http://www.shinozaki-bunkaplaza.com/library/>